

第9回 認証産業活用の在り方検討会 議事概要

1. 日時：令和8年1月22日（木） 14：00～16：00
2. 場所：経済産業省別館11階 1120会議室及びオンライン会議室（Teams）
3. 出席者：松橋委員長、浅田委員、加藤委員、牟田委員、山口委員、石毛委員、森内委員、石井委員、近藤委員、半田委員、藤原委員、湊委員、山本委員
(委員全13名中、本人出席13名)
オブザーバー：一般財団法人日本規格協会、国立研究開発法人産業技術総合研究所、内閣府知的財産戦略推進事務局

4. 議事概要

(1) 産業界による発表

事務局による資料2に基づく説明後に、各委員より資料に基づいてそれぞれ説明があった。

(2) 討議

各委員からの発表を受けた質疑応答及び委員からの主な意見は下記のとおり。

【認証機関】

- ・ 産業界のニーズを踏まえながら、国外認証機関との連携や国外認定機関からの認定取得を通じて、国外の規制対応を継続していく。
- ・ 国外の規制対応のために現地法人を設立することの必要性は理解するが、事業継続性の観点から経営判断が難しく、産業界と議論を重ねて糸口を見つきたい。
- ・ 単独での対応が難しい領域は、他の国内認証機関と協力して対応したい。
- ・ 試験基盤整備増強について、国や産業界から要望があれば協力したい。
- ・ JBCE や JETRO 等が収集する欧州に関する情報のスムーズな共有を要望。
- ・ 認証・認定機関では手の届かない領域のコンサルティング支援は国外コンサルティング企業が多く、機微情報保護の観点から国内企業も強化すべき。
- ・ ISCC Plus のような国外のスキームに国内認証機関が対応することは重要。ただ国や産業界が主導のもと国内認証機関も協力して新たな国内のスキームを作り、世界に通ずる形にしていくことも必要ではないか。

- ・ 国外において現地法人の設立や認定の取得ができる力を個々の国内認証機関が付けることを目指すべきであり、そのためには産業界や国の支援が必要。

【認定機関】

- ・ 産業界と認証・認定機関が連携を深めるには、対話や意見交換を継続すべき。
- ・ 産業界による認証の活用推進や国内のスキームを創設する際の支援を拡充する。
- ・ 国内認証機関が機微情報を保護しながら国外認定機関から認定を取得できるよう、国内認定機関が国外認定機関と個別に締結した MOU の活用を強化したい。

【産業界】

- ・ 今後新しい規格の認証が出てきた際に、国内認証機関が認証を開始するタイミングを決定するにあたって、産業界から協力できることがあれば国内認証機関から指南いただきたい。
- ・ 産業界が国内認証機関を利用したくともどの機関に相談すべきか分からない。認証産業全体として、産業界のニーズを国内認証機関に集積する体制を整備すべきではないか。

以上